

平成 29 年度 春期 システム監査技術者試験 解答例

午後Ⅰ試験

問 1

出題趣旨	
企業グループの再編，M&A に伴って，アプリケーションシステムや業務データを統合することは珍しいことではない。その際，日常の業務処理とは異なるリスクが発生し，それに対応するコントロールが必要になる。また，統合の目的や背景を十分に踏まえた管理体制が重要となる。したがって，このようなコントロールと管理体制の特徴を十分に踏まえたシステム監査が求められる。 本問では，在庫管理システムの統合を題材として，監査ポイントと監査手続の設定の前提となる，リスクの識別と適切なコントロールを考察できる思考力を問う。	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問 1	A 社が B 社から仕入れたモジュール製品製造用の製品に B 社と異なる製品コードが設定されているから	
設問 2	登録入力ができる担当者と承認入力ができる責任者を別の者とする。	
設問 3	a 在庫移管開始前に全ての棚卸差異データの承認入力完了していることを確認する。	
設問 4	システム担当者に質問し，最終出庫日が在庫移管日で置き換えられないことを確認する。	
設問 5	統合後の取引件数及び品目数の増加に対応できるシステムの処理能力が検討されていること	

問 2

出題趣旨	
システム開発の品質確保のために，品質管理の仕組みを構築している組織は多い。しかし，運用が形式的になっていたり，“管理のための管理”になっていたりして，品質の確保・向上に十分に寄与していない場合も見受けられる。そこで，システム監査人は，品質管理の仕組みの表面的・形式的なルールだけでなく，その運用状況を詳細に確認し，品質確保・向上に真に役立つものになっているかどうかを検証する必要がある。 本問では，システム開発における品質管理の運用状況について，リスクやコントロールを認識し，確認すべき事項を理解して適切な監査手続を設定できる能力を問う。	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問 1	レビュー指摘件数としてカウントする指摘内容の判断基準が明文化され，各開発部に周知されているか。	
設問 2	実績値が指標値を下回った理由について，品質管理部が審査して承認していること	
設問 3	(1) レビューアによってレビュー観点が異なり，指摘区分に偏りが発生していないか。	
	(2) 表計算ソフトを使用して傾向を分析するなら，サンプリングではなく全件調査すべきである。	
設問 4	テスト標準で定められたテスト密度などの実績値が工程完了の判定基準に含まれているかどうか。	

問3

出題趣旨	
近年，制御システムにおいても汎用のシステム機器と通信プロトコルが用いられるようになったことによって，マルウェア感染や不正アクセスなどのサイバー攻撃のリスクが増大している。このため，制御システム及びそれが接続されているネットワークにおいても，セキュリティ対策を講じることが不可欠となっている。 本問では，セキュリティ管理の対象及びレベルが異なるシステムやネットワークの接続に伴って発生するリスク，並びにリスクの程度に応じたコントロールを識別できる能力，また，それらのコントロールの有効性を検証するために必要な監査手続を選択できる能力を問う。	

設問	解答例・解答の要点		備考
設問1	両規程で定められたセキュリティ管理のレベルが同等であり，相互に矛盾がないこと		
設問2	不要なアクセス権をもつ社員などによる情報の持出しやインターネット経由の外部からの不正アクセス		
設問3	(1)	① ・セキュリティパッチ適用計画書 ② ・制御データ処理時の影響調査結果報告書	
	(2)	侵入防御システムの導入による防御	
設問4	ポリシーを査閲し，遠隔監視・保守に必要なパケットだけを通過させる設定になっていることを確認する。		